

Y08b 「しし座流星群全国高校生同時観測会」のとりくみ

鈴木文二(埼玉県立三郷工業技術高校)、宮下敦(成蹊中学高校)、尾久土正己(和歌山県立大成高校美里分校)、大島修(岡山県立鴨方高校)、浜根寿彦(群馬県立ぐんま天文台)、渡部義弥(大阪市立科学館)、水野孝雄(東京学芸大学)、小野智子(天文教育普及研究会)

「多くの高校生に『しし座流星群』を体験させたい。高校生の天文ネットワークを作ろう」。私たちは、壮大なスケールのとりくみを始めた。学校現場と社会教育との連携を強め、深めていくこと、地域のアマチュアとの協力体制を作ること。そして、研究者と高校生が直接語り合える場を作ることなど、関連する課題は膨らんでいった。天文教育普及研究会、日本天文学会、日本惑星科学会の共催、さらに、国立天文台など14団体の後援を受けて、観測会実行委員会は昨年6月にスタートした。WWWサーバーの立ち上げ、メーリングリストなど、インターネットを通じた呼びかけを9月に開始し、同時に、実行委員が中心となり、全国各地の天文教育・普及に関連する団体、ネットワークに直接呼びかけを行い、さらに、適切な時期を選び、何回かのプレスリリースを行った。その結果、参加資料請求は352校に及び、全国の高校数の5ループ、2576名に達した。既存の教育行政のルートに乗らず、このような多数の参加があったのは、過熱したマスコミ報道の影響を差し引いても、驚くべき数であると言える。「理科離れ」という言葉が喧伝されているが、自然と接する機会を、ダイナミックに演出し、天文学の素晴らしさを軸にした活動をすれば、大きな一歩を踏み出せるという確信を持てるイベントであった。それぞれの観測サイト、グループ内で、さらに参加した生徒たちの中で、『しし座流星群』を通じて、多くの交流が生まれ、今回の観測会が継続的なイベントとして成長していく期待が膨らんできている。